

1 ^{あかつかけじゅうたく}赤塚家住宅 4棟 [有形文化財（建造物）]

- [所在地] 御所市本町
- [所有者] 赤塚眞澄
- [員数] 4棟（^{しゅおく}主屋、^{うちぐら}内蔵、^{ふるとう}風呂棟、^{きやくようもん}客用門）
附 5棟（客用門両脇塀、井戸屋形、井戸屋形両脇塀）
- [時代] 18世紀後半（主屋、客用門、客用門両脇塀）、元禄14（1701）年（内蔵）、
昭和前期（風呂棟）、昭和中期（井戸屋形、井戸屋形両脇塀）
- [概要]

赤塚家住宅は、御所市北部中央の葛城川両岸に形成された御所町のうち、在郷町として建設された西御所に位置し、西御所の主要道路である本町通りに南面する。

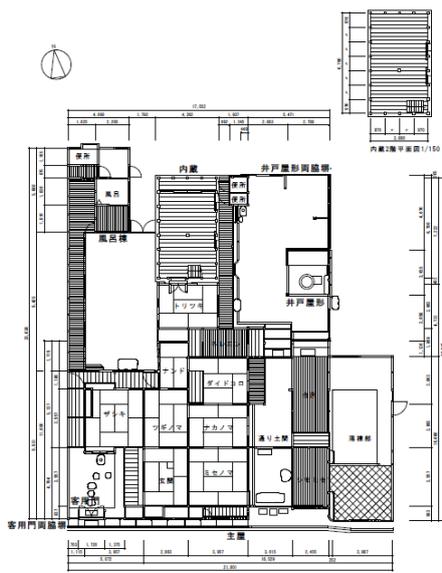
主屋は南面銅板葺北面^{どうばんぶき}棧瓦葺^{さんがわらぶき}で、建物の特徴や寸法から、建築年代は18世紀後半とみられ、御所町に現存する民家の中で最古級である。主屋の屋根は当初茅葺で、南面に当初の茅葺の痕跡を残している。主屋玄関、ツギノマ及びザシキは来客用の部屋となっており、本陣としても使用された。

内蔵は木造土蔵造の2階建てで、地棟に貼り付けられた祈禱札により元禄14年(1701)の建築と判明し、建築年代が明らかな土蔵として全国的にも古いものである。

風呂棟は昭和前期の建築で、良質な材料を使う近代的意匠でまとめる。

客用門は18世紀後半の建築で、両脇に土塀を設ける。井戸屋形は昭和中期の建築で、南北に土塀を設ける。

本住宅の主屋は茅葺であった頃の状態を良く残す数少ない遺構であり、御所町において茅葺から瓦葺へと変化していく変遷を考察する上で重要であるとともに、^{やまとむね}大和棟^(註)と呼ばれる民家形式を考察する上でも重要な建物である。



赤塚家住宅 平面図



主屋外観（東南より）



内蔵外観（東南より）



ミセノマ（南東より）



内蔵内部（東南より）

(註) ^{やまとむね}大和棟とは、^{たかへづくり}高塀造の妻壁に接して一段低い屋根（落棟）を設けるもの。なお、高塀造とは、母屋部分を茅葺とし、その両妻壁部分に茅葺屋根よりも高い袖壁を付け、その外壁を漆喰で塗り籠めた屋根形式のこと。